

2024年度

シラバス



学校法人 湯梨浜学園

湯梨浜学園高等学校

〒689-0727 鳥取県東伯郡湯梨浜町田畑3-2-1

TEL (0858)48-6810 FAX (0858)48-6813

教科名	国語	科目名	論理国語・現代文演習	単位数	3
対象	高校3年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 大学入試に対応できる現代文の能力を身につける。 ② ものの見方・考え方を深め、高度な読解力・思考力を磨き、他者に表現する力を身につける。 ③ 物事に対する視野を広げ、自身の人生や現代社会を豊かにする態度を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた受験指導を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	大学入試対策自作テキスト 実戦問題バックV(駿台) 共通テスト対策実力完成直前演習(Learn-S) など				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	9	10	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12
5	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12	11	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12
6	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12	12	共通テスト試験対策	大学入試共通テスト試験試験直前対策を行う。	9
7	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	9	1	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	大学入試共通テスト試験試験直前対策を行う。	9
8	共通テスト試験対策など	これまでの総復習など。また、記述対策も併せて行う。	3	2			
9	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12	3			

備考 大学別記述対策・小論文対策等、個人に応じた対策を定期的に行う。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 大学入試に対応できる古典の能力を身につける。 ② ものの見方・考え方を深め、高度な読解力・思考力を磨き、他者に表現する力を身につける。 ③ 物事に対する視野を広げ、自身の人生や現代社会を豊かにする態度を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた受験指導を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	大学入試対策自作テキスト 実戦問題バックV(駿台) 共通テスト対策実力完成直前演習(Learn-S) など				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	9	10	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	実践力を付けるために、近年の大学入試で出題されたテーマ・分野を用いて、主に大学入試共通テストを中心とした入試対策を行う。また記述対策も併せて行う。	12
5	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	12	11	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	実践力を付けるために、近年の大学入試で出題されたテーマ・分野を用いて、主に大学入試共通テストを中心とした入試対策を行う。また記述対策も併せて行う。	12
6	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	12	12	共通テスト試験対策	大学入試共通テスト直前対策を行う。	9
7	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	9	1	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	大学入試共通テスト直前対策を行う。	9
8	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	3	2			
9	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	12	3			

備考 大学別記述対策等、個人に応じた対策を定期的に行う。

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究・世界史演習	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 世界の歴史を日本の歴史と関連付け、世界の構造や成り立ちを歴史的視野から理解しかつ考察する力を養う。 ② 民主的、平和的な国家の一員としての自覚をもつ。 ③ 国際社会の中で、他国（他地域）と協調しながら、主体的に行動する日本人としての資質を培う。 ④ 一・二年次に学習してきた世界史を、大きな流れとして繋げ、大学入学試験に対応できる力を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、ワークシート、ノートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言、定期考査、ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、ワークシートをもとに評価する。				
学習方法	① 教科書記載事項を重視し、熟読をする。 ② 授業で解説や補足説明を受ける。 ③ 問題演習によって復習することにより、知識の定着を図る。 ④ 単元ごとに入試対策を行う。				
教科書・教材等	詳説世界史（山川出版社） 詳説世界史整理ノート（山川出版社） ニューステージ世界史詳覧（浜島書店） 共通テストバックV（駿台文庫）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	高校1年次の復習 共通テスト対策 ①産業革命と環大西洋革命 ②イギリスの優位と 欧米国民国家の形成	マーク形式の演習を行う。	6	10	共通テスト対策	マーク形式の演習を行う。	8
5	高校1年次の復習 共通テスト対策 ①アジア諸地域の動揺 ②帝国主義とアジアの 民族運動	マーク形式の演習を行う。	8	11	共通テスト対策	マーク形式の演習を行う。	8
6	高校1年次・2年次の復習 共通テスト対策 ①第一次世界大戦と 世界の変容 ②第二次世界大戦と 新しい国際秩序の形成	マーク形式の演習を行う。	8	12	共通テスト対策	マーク形式の演習を行う。	6
7	共通テスト対策	マーク形式の演習を行う。	6	1	私大・国公立二次試験対策	個別大学対策を行う。	6
8	共通テスト対策	マーク形式の演習を行う。	2	2	私大・国公立二次試験対策	個別大学対策を行う。	
9	共通テスト対策	マーク形式の演習を行う。	8	3			

備考

教科名	地理歴史	科目名	日本史探究・日本史演習	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 我が国の歴史の展開を日本史的視野に立って総合的に考察できる。 ② 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって歴史的思考力を培う。 ③ 国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…添削課題、定期考査、ワークシートをもとに評価。 ② 思考・判断・技能…授業における発言、課題に対する考察などをもとに評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物をもとに評価する。				
学習方法	① 教科書・史料集・図録を用い、歴史を考察する基本的な方法を身につける。 ② 提出物で授業の理解度を確認する。 ③ 大学入試の問題演習を行い、受験に必要な知識を身につける。 ④ 史料・グラフを読み取り、仮説が正しいかどうかを自分で判断できるようにする。				
教科書・教材等	詳説日本史（山川出版社） 詳説日本史図録（山川出版社） 詳説日本史整理ノート（山川出版社） 共通テストバックⅤ（駿台文庫）				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	高校1年次の復習 共通テスト対策 明治時代 大正時代	マーク形式の演習を行う。	8	10	共通テスト対策 現代・テーマ別問題	マーク形式の演習を行う。	8
5	高校1年次の復習 共通テスト対策 昭和時代	マーク形式の演習を行う。	8	11	共通テスト対策 古代～現代	マーク形式の演習を行う。	8
6	高校1年次・2年次の復習 共通テスト対策 昭和時代 平成時代	マーク形式の演習を行う。	8	12	共通テスト対策 資料・図表問題 史料読解問題	マーク形式の演習を行う。	8
7	共通テスト対策 古代～中世・近世	マーク形式の演習を行う。	8	1	私大・国公立二次試験対策	個別大学対策を行う。	8
8	共通テスト対策 古代～近世・近代	マーク形式の演習を行う。	2	2	私大・国公立二次試験対策	個別大学対策を行う。	
9	共通テスト対策 古代～近世・近代	マーク形式の演習を行う。	8	3			

教科名	地理歴史	科目名	地理探究・地理演習	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 現代世界の地理的な事象を、主に地誌的に考察し、現代社会の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 ② 国家、村落・都市、貿易など、歴史の変遷を通して現代社会的な考察力を養う。また、州ごとの地誌を見ながら、それぞれの特色を自然、気候、人種民族、産業など総合的な観点からつかむ。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、ワークシート、ノートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言、定期考査、ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、ワークシートをもとに評価する。				
学習方法	① 問題演習によって現代世界の課題意識を持ち、地理的な事象について知識の定着を図る。 ② 問題演習を通して、地図帳やデータブック、地理資料を活用し、基礎事項の定着を図る。				
教科書・教材等	地理総合(二宮書店) 地理探求(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院) 共通テスト実力トレーニング(啓隆社) 新編地理資料(とうほう) データブック オブ・ザ・ワールド(二宮書店) 共通テストバックV(駿台文庫)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	対策演習 系統地理分野 地形・気候・災害中心	模擬試験問題の解説の見方、学習の方法を再確認し、得点源に結びつける。 系統地理の単元別対策を行う。 演習を通して不得意な分野・単元を発見し、解説を通して克服する。	6	10	共通テスト対策① 模擬試験演習	問題演習を通して、対策演習で培ったことをいかす。	8
5	対策演習 系統地理分野 工業・農業中心	系統地理の単元別対策を行う。 演習を通して不得意な分野・単元を発見し、解説を通して克服する。 初出の図・グラフに対して、どの部分に着眼点を置けばよいかという判断力を身につける。	8	11	共通テスト対策② 模擬試験・過去問題演習	問題演習を通して、対策演習で培ったことをいかす。	8
6	対策演習 系統地理分野 共通テスト第3問中心	系統地理の単元別対策を行う。 演習を通して不得意な分野・単元を発見し、解説を通して克服する。 初出の図・グラフに対して、どの部分に着眼点を置けばよいかという判断力を身につける。	8	12	共通テスト対策③ 模擬試験・予想問題演習	問題演習を通して、対策演習で培ったことをいかす。	6
7	対策演習 地誌分野 共通テスト第4問 世界の諸地域中心	各地域の自然・風土・歴史などの特性を総合的に捉え、各地域の関係と相違点について理解する。	6	1	[二次試験講座] [私大演習講座]	共通テスト終了後、二次試験対策および私大試験問題を重点的に行い、十分な力を身に付ける。	8
8	対策演習 地誌分野 第4問 複数国比較問題 中心	各地域の自然・風土・歴史などの特性を総合的に捉え、各地域の関係と相違点について理解する。	2	2			
9	対策演習 日本地理分野 第5問・地形図中心	第5問で問われる日本の自然・地形・産業の特性を理解する。 特徴ある地形図の読図を通し、地形図を読む方法を身につける。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学演習(文系数学ⅠA)	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適應できる能力をつけていくための応用力を養っていく。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ③ 解法をできるだけ増やす。				
教科書・教材等	2025共通テスト対策〔実力養成〕重要問題演習(ラーズ) 2025共通テスト実戦問題バックⅤ数学ⅠA(駿台文庫)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6	10	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8
5	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8	11	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8
6	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8	12	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
7	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6	1	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
8	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	2	2			
9	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学演習(理系数学ⅠA)	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適應できる能力をつけていくための応用力を養っていく。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえらる説明が書けるよう心がける。 ③ 解法をできるだけ増やす。				
教科書・教材等	クリアー数学演習ⅠAⅡBC(数研出版)、2025共通テスト実戦問題バックⅤ数学ⅠA(駿台文庫)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	6	10	問題演習応用力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	8
5	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	8	11	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8
6	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	8	12	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
7	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	8	1	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
8	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	2	2			
9	問題演習応用力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学演習(文系数学ⅡB)	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適應できる能力をつけていくための応用力を養っていく。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえらる説明が書けるよう心がける。 ③ 解法をできるだけ増やす。				
教科書・教材等	2025共通テスト対策〔実力養成〕重要問題演習(ラーンズ) 2025共通テスト実戦問題バックⅤ数学ⅡBC(駿台文庫)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6	10	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8
5	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8	11	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8
6	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8	12	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
7	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6	1	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
8	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	2	2			
9	共通テスト演習 (単元ごと)	単元ごとのマーク問題に制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学演習(理系数学ⅡBC)	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適應できる能力をつけていくための応用力を養っていく。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ③ 解法をできるだけ増やす。				
教科書・教材等	クリアー数学演習ⅠAⅡBC(数研出版)、2025共通テスト実戦問題バックⅤ数学ⅡBC(駿台文庫)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	6	10	問題演習応用力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	8
5	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	8	11	問題演習応用力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	8
6	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	8	12	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
7	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	6	1	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
8	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	2	2			
9	問題演習応用力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	単位数	4
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 ② 大学入試に向けて、まず二次・私大の基礎となる問題を演習する。次に応用力、実践力を養う問題を演習することによって、各自が志望する大学に向けての受験対策が行える土台を築く。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ② 評定にあたっては、ペーパーテスト等による知識や技能のみの評価に偏した評定を行わない。 ③ 「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえらる説明が書けるよう心がける。				
教科書・教材等	クリアー数学演習ⅢC(教研出版)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〈数学Ⅲ〉 第3節 積分法の応用 7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ	定積分を、直線や曲線で囲まれた部分の面積、立体の体積などに活用できるようにする。	12	10	受験大学問題演習	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	16
5	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力をつける。	16	11	受験大学問題演習	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	16
6	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力をつける。	16	12	受験大学問題演習	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	12
7	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力をつける。	12	1	受験大学問題演習	国公立二次・私立大学の個別試験の演習を行い、応用力をつける。	12
8	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力をつける。	4	2			
9	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力をつける。	16	3			

備考

教科名	理科	科目名	化学演習	単位数	4
対象	高校3年(理系)	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 自然の事物・現象について理解する。 ② 人間と自然のかかわりについて考察し、自然に対する関心や探究心を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 化学の基本的な概念や原理・法則の理解・・・小テストや定期考査で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	化学(東京書籍), 化学図録(数研出版), センサー総合化学(啓林館) オリジナルテキスト, 共通テスト実戦問題バックV(駿台文庫), 共通テスト分野別演習				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第6編 高分子化合物 第1章 高分子化合物	・高分子化合物の分類や特徴、合成方法を理解する。	12	10	共通テスト対策 個別試験対策	・共通テスト模試を演習する。 ・私立大学, 国公立大学の過去問を演習する。	16
	第2章 天然高分子化合物 1. 単糖類・二糖類・多糖類 2. アミノ酸 3. タンパク質	・単糖類, 二糖類, 単糖類の合成方法を理解する。 ・アミノ酸およびタンパク質の構造と特徴を検出法とともに理解する。					
5	第3章 合成高分子化合物 1. 合成繊維 2. プラスチック 3. ゴム	・合成繊維となる合成高分子の構造や性質を理解する。 ・合成樹脂となる合成高分子の構造や性質を理解する。 ・天然ゴム・合成ゴムとなる高分子の構造や性質を理解する。	16	11	共通テスト対策	・共通テスト模試を演習する。	16
6	共通テスト対策 個別試験対策	・共通テスト模試を演習する。 ・私立大学, 国公立大学の過去問を演習する。	16	12			12
7			12	1	個別試験対策	・私立大学, 国公立大学の過去問を演習する。	12
8			4	2			
9			16	3			

備考

教科名	理科	科目名	物理演習	単位数	5
対象	高校3年(理系)	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 物理的な事物・現象についての関心・探究心を高め、概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然を探究する能力や態度を高める。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	物理基礎(数研出版)、物理(数研出版) センサー物理基礎+物理(啓林館)、共通テスト実践問題バックV(駿台文庫) 共通テスト分野別演習				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第4章 電磁誘導と電磁場	<ul style="list-style-type: none"> 電磁誘導の法則を理解し、誘導起電力を考えながら回路に流れる電流を求めることができる。 交流電圧の発生原理を理解し、三角関数を使って記述できる。 インダクタンス、リアクタンスについて理解し、交流回路の電圧を求めることができる。 	15	10	大学入試共通テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> 分野別演習を通して総復習を行うと共に、苦手分野を克服する 大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。 	20
5	第5編 原子 第1章 電子と光	<ul style="list-style-type: none"> 比電荷、トムソンの実験、ミリカンの実験を考察し、電気素量の求め方を理解する。 	20	11	大学入試共通テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> 分野別演習を通して総復習を行う。 大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。 	20
6	第2章 原子、電子と物質の性質	<ul style="list-style-type: none"> 光電効果やコンプトン効果を知ること、光の波動性や粒子性を理解する。 ボーアの量子条件からエネルギー準位を求めることができる。 放射性物質について知、放射性崩壊について理解を深める。 	20	12	大学入試共通テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> 分野別演習を通して総復習を行う。 大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。 	15
7	大学入試共通テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> 分野別演習を通して総復習を行うと共に、苦手分野を克服する 大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。 	15	1	私立大学・国公立大学 二次試験対策	<ul style="list-style-type: none"> 大学個別入試問題を演習し、各大学の傾向を知ること、対策をたてる。 	15
8	大学入試共通テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> 分野別演習を通して総復習を行うと共に、苦手分野を克服する 大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。 	5	2			
9	大学入試共通テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> 分野別演習を通して総復習を行うと共に、苦手分野を克服する 大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。 	20	3			

備考

教科名	理科	科目名	生物演習	単位数	5
対象	高校3年(理系)	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 自然の事物・現象について理解する。 ② 人間と自然のかかわりについて考察し、自然に対する関心や探究心を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	生物(数研出版) 共通テスト実践問題バックV(駿台文庫)、共通テスト分野別演習、オリジナルテキスト				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	4編 生物の環境応答 第1章 動物の刺激の受容と反応	<ul style="list-style-type: none"> ニューロンのはたらきについて理解する。 刺激はどのようにして受け取られるかを理解する。 神経系における情報の処理や統合のしくみを理解する。 	15	10	大学入学共通テスト対策 その1 大学入学共通テスト対策 その2	<ul style="list-style-type: none"> 各分野ごとの内容を深めながら他の分野との関連づけて理解する。 教科書の欄外の内容に触れ理解を深める。 	20
5	第2章 動物の行動 第3章 植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> 神経系の発達と動物の行動の関係を理解する。 被子植物の生殖と発生について理解する。 	20	11	大学入学共通テスト対策 その3	<ul style="list-style-type: none"> 予想問題、過去問を用いて総合的に演習を行う。 	20
6		<ul style="list-style-type: none"> 植物の一生と各段階での植物ホルモンの作用を理解する。 光刺激と植物の反応について理解する。 刺激に対する植物の応答に関与する物質について理解する。 	20	12	大学入学共通テスト対策 その4	<ul style="list-style-type: none"> 予想問題、過去問を用いて総合的に演習を行う。 	15
7	第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 1. 個体群	<ul style="list-style-type: none"> 開花や発芽はどのようなしくみで行われているかを理解する。 同一種の個体からなる集団について理解する。 種内関係について理解する。 	15	1	私立大学・国公立大学 二次試験対策	<ul style="list-style-type: none"> 各大学の過去問を中心に二次試験に対応できる力を養う。 	15
8	3. 異種個体群間の関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> 種間関係について理解する。 生態的地位について理解する。 生態系に取り込まれたエネルギーの利用について理解する。 多様性とそれに影響を与える要因について理解する。 	5	2			
9			20	3			

備考

教科名	理科	科目名	理科基礎演習	単位数	4
対象	高校3年(文系)	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 自然の事物・現象について理解する。 ② 人間と自然のかかわりについて考察し、自然に対する関心や探究心を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍), 生物基礎(数研出版), 地学基礎(東京書籍) オリジナルテキスト, 共通テスト実践問題バックV(駿台文庫), 共通テスト分野別演習				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	大学入学共通テスト対策 その1	・知識問題を焦点に図やグラフを みながら基本的な概略を各分野 ごとに理解する。	12	10	大学入学共通テスト対策 その3	・教科書の欄外の内容に触れ理解 を深める。	16
5	大学入学共通テスト対策 その1	・知識問題を焦点に図やグラフを みながら基本的な概略を各分野 ごとに理解する。	16	11	大学入学共通テスト対策 その4	・予想問題、過去問を用いて総合 的に演習を行う。	16
6	大学入学共通テスト対策 その1	・知識問題を焦点に図やグラフを みながら基本的な概略を各分野 ごとに理解する。	16	12	大学入学共通テスト対策 その4	・予想問題、過去問を用いて総合 的に演習を行う。	12
7	大学入学共通テスト対策 その2	・各分野ごとの内容を深めながら 他の分野と関連づけて理解す る。	12	1	私立大学・国公立大学 二次試験対策	・各大学の過去問を中心に二次試 験に対応できる力を養う。	12
8	大学入学共通テスト対策 その2	・各分野ごとの内容を深めながら 他の分野と関連づけて理解す る。	4	2			
9	大学入学共通テスト対策 その3	・教科書の欄外の内容に触れ理解 を深める。	16	3			

備考

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3
対象	高校3年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学習方法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践				
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材				

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	体づくり運動 ※体育理論 豊かなスポーツライフの設計の仕方 陸上競技	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てることができる。 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。 記録の向上や競争の楽しさを味わい、各種目特有の技能を高めることができる。	9	10	【選択①】 ・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開する。 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	12
5			12	11	【選択②】 ・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型		12
6	卓球	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	12	12			4
7			9	1			0
8	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	3	2			0
9			12	3			0

備考

教科名	外国語	科目名	英コミⅢ、論理表現	単位数	6
対象	高校3年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 一つ一つの文だけでなく、全体の意味を把握する読解力・思考力を身につける。 ② 読み取った内容を、自分の言葉で論理立てて表現できる記述力を身につける。 ③ 多様なテーマを通して、背景知識を身につける。 ④ 英語の文化をふまえ、自然な英訳力を身につける。 ⑤ 180wpm以上の英文を聞き、的確に内容をつかむ。 ⑥ αクラスは共通テストで筆記平均140点以上、リスニング平均70点以上の得点力をつける。 ⑦ βクラスは旧帝大クラスの二次試験問題（筆記、リスニング含む）で平均7割以上の得点力をつける。				
評価の観点 評価方法	① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能） ② 学習した知識や技能を活用して概要や要点などを目的に応じてとらえることができるかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現） ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に取り組む態度）				
学習方法	① 「目標解答時間」を参考にして解答した後、綿密な予習をして授業に臨む。 ② 段落ごとの要旨をつかみ、英文全体の論理展開を理解し、要約力をきたえる。 ③ 複雑な文構造の英文を、自然な表現で和訳できるように演習する。 ④ 直英作にならないよう英訳するための語彙、文法、構造の知識を授業を通じて身につける。 ⑤ 速読英単語（必修、上級）、GRAMMARMASTERを活用し、語彙力、熟語力の定着を図る。 ⑥ 200wpm程度の英文を聞き、Shadowing, Dictationなどの技法を用い、T/F問題を確実に得点できるようにする。				
教科書・教材等	教科書ENLICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ（東京書籍）、 FACTBOOK English Logic and Expression Ⅲ（桐原書籍） 副教材 GRAMMARMASTER（Z会出版）、大学入試過去問題、本校オリジナルテキスト				

年		間		授		業		計		画	
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4			24	10							32
5	大学入試問題、湯梨浜オリジナル問題を用い、自宅での予習を前提とした徹底演習期	αクラスは大学入学共通テスト～中堅私立大学レベルの問題に慣れ確実に得点できるようにする。 βクラスは国公立大学二次試験レベル（中難易度～高難易度）を解きこみ、各大学の特徴を捉える。	32	11	自宅での予習を前提とした応用力および柔軟性育成期	語学の根幹である情報交換が、いかなる問題でも、各言語において「より自然」となるよう、その応用力、柔軟性を養う。	32				
6			32	12	自宅での予習を前提とした大学入学共通テスト演習期	各個人の大学入学共通テスト目標点に達するべく、時間配分を考慮して解答させる。					24
7	夏期集中講座などを利用して、自宅での予習を前提とした各クラスの4技能の弱点を補う補修期	4月からこれまでの各クラスで、垣間見えた弱点を補修し、安定感のある英語力をつける。	24	1							24
8			8	2	各個人の大学入試に合わせた個別対策						
9	自宅での予習を前提とした応用力および柔軟性育成期	語学の根幹である情報交換が、いかなる問題でも、各言語において「より自然」となるよう、その応用力、柔軟性を養う。	32	3							

備考